2025年度 児童館年間利用数

田中児童館

2024年度							2025年度					
学年	学童登録人数	延長保育		18時～19時			学童登録人数	延長保育		18時～19時		
		17時～18時						17時～18時				
1年	36	名	6	名	4	名	40	名	14	名	6	名
2年	38	名	9	名	4	名	42	名	7	名	4	名
3年	26	名	5	名	1	名	34	名	6	名	3	名
4年	16	名	0	名	3	名	18	名	2	名	3	名
5年	18	名	0	名	1	名	9	名	1	名	1	名
6年	6	名	2	名	0	名	11	名	0	名	0	名
合計	140	名	22	名	13	名	154	名	30	名	17	名

自由来館者数													
2024年度							2025年度						
幼児	小学生		中高生	大人	その他	合計	幼児	小学生		中高生	大人	その他	合計
	1～3	4～6						1～3	4～6				
1,932	411	285	57	4,387	462	7,534	1,994	445	243	58	1,988	624	5,352

学童年間利用数													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2024年度	1,815	1,497	1,447	1,881	1,513	1,411	1,536	1,297	1,478	1,264	1,169	1,445	17,753
2025年度	1,953	1,612	1,767	1,959	1,649	1,692	1,650	1,202	1,461	1,232	962	1,426	18,565

ヒヤリハット　A（危険度重）B（危険度中）C（危険度軽）	事故報告　（受診を要した件数）	要望・意見・苦情　報告
A：　6　件　　B：　5　件　　C：　3　件	0　件	要望：　1　件　　意見：　0　件　　苦情：　1　件

方基法針本人	重点目標	計画(P)	実践内容(D)	評価(C)	改善（A）
サービスの質の向上	子育て支援の強化	・インスタグラム活用による地域の方への情報配信と利用促進 ・乳幼児親子が過ごしやすい環境作り ・子育てチーフアドバイザーに気軽に相談できる環境づくりを行う ・父親や平日仕事をしている方が利用できるように、土曜日を活用する	・インスタグラムに行事や広場の様子を積極的に掲載する ・新たな行事を企画、実施する ・子育てチーフアドバイザーを配置を地域の方に周知、アピールする ・カフェタイムを土曜日にも実施する（子どものあそびの見守り有）	・インスタグラムを見ての来館者も多くなり、フォロワーも450人を超えた ・児童館に子育てチーフアドバイザーがいるという認識が広がってきている ・土曜日にカフェタイムを実施することで、父親や平日仕事の母親の児童館来館が増加している	・インスタグラムへの積極的な掲載を継続し、来館者が増えるように努める ・東灘区全体で子育てチーフアドバイザーの活動機会を作り、地域の子育て世帯に、児童館とチーフアドバイザをアピールしていく ・父親や平日仕事をしている方が利用できるように、土曜日のカフェタイム等を継続する
	児童育成の拡充	・幅広い年齢の児童が楽しめるよう行事内容を工夫する ・異学年交流を積極的に取り入れる ・児童が主体となり行事を実施する ・外遊びの機会を増やしていく ・集団を活かし、向上心を育む行事を実施する ・児童の意見を反映する取り組みを実施 ・保護者会、個別懇談（随時）	・秋まつり、ハロウィン行事、クリスマス会を実施 ・インスタグラムで行事のお知らせや活動の様子を配信する ・児童の意見を取り入れるアンケートを実施し、反映させる ・保護者会を実施（年1回） ・個別懇談を実施（随時） ・こどもの居場所づくり事業（毎月）	・秋まつり等の行事は、高学年の児童が主体となって計画、準備し、意欲的に取り組んでいた ・児童へのアンケートや選挙を実施し、やってみたいこと、購入してほしいものなどの意見を反映することができた ・居場所づくりの実施により、学童保育児童以外の児童が児童館を知り、居場所として認識するきっかけとなった	・今後も児童が主体となり、行事の計画、準備を行い、楽しめるようにしていく ・意見箱「あのねボックス」の設置とヒヤリングを実施し、相談しやすい環境づくりを行う ・引き続き、児童の意見を積極的に反映できるように、アンケートやこども会議を実施する ・小中学校と連携し、外遊びの機会を増やす ・行事予定やあそびの様子をインスタグラムで配信し、保護者と共有できるようにする
地域との共生	地域との連携	・地域ボランティアの多様な活動を活かし、児童育成を行う ・地域とのつながりを活かした行事を開催する ・小中学校の体験学習、実習生を受け入れる ・地域との連携を強化する	・地域ボランティアによる行事を実施（科学、工作、英語、おはなし会など） ・地域の各団体と積極的に交流する（本山西ふれあいのまちづくり協議会、主任児童委員、民生委員など） ・トライやるウィーク、ワークキャンプ実習生を受け入れる	・様々な地域ボランティアにより、親子館事業、学童保育とも豊かな体験を取り入れることができた ・たなカフェにて、主任児童委員と民生委員による託児を実施し、地域と連携した子育て支援が実現できている ・トライやるウィークなど小中学校からの依頼を複数受け、交流ができた	・地域とのつながりを活かした行事を継続し、児童館と地域と協力して子育て支援を行っていく ・体験学習、トライやるウィークなど積極的に受け入れて、地域に貢献する ・だんじりの鳴り物披露会やお茶会などの行事を継続し、子どもたちが地域の伝統に触れられる機会を作っていく
	年間利用数	・放課後児童クラブ年間利用者予定数（20,000名） ・自由来館年間利用者予定数（9,000名） ・夏休み等の長期休暇中に、乳幼児親子が児童館を利用できるように、学童保育が小学校の体育館等を利用する（週1回程度）	・放課後児童クラブ年間利用者数（18,565名） ・自由来館年間利用者数（5,352名） ・夏休み等の長期休暇中は、部活動のない水曜日に小学校の体育館を利用し、児童館で親子間事業を実施	・放課後児童クラブの登録児童数は毎年10%程度増加している ・放課後児童クラブの1日当たりの利用者数は、登録者児童数の60%程度 ・大規模改修が重なり、夏休み中に児童館を利用した乳幼児親子は少なかった	・放課後児童クラブの登録者数が年々増加し、面積基準を超えてしまう可能性があるため、小中学校の体育館や校庭の利用を進めていく ・夏休み等の長期休暇中に、乳幼児親子が児童館を利用できるように、積極的に小学校の体育館等を利用する（夏休み中に児童館で10回程度の乳幼児親子向けプログラムを実施）